

北京の雑院を改修して 住まう日本人建築家たち



©ShingoKanagawa



▲
【参加申込み】

会場定員 20名(先着順)

講師—川井 操 (滋賀県立大学准教授)

北京は中国の首都として800年近い悠久の歴史がある。中心部には胡同の路地空間があり、伝統住居の四合院も改修保存を繰り返しながらかたちを留めている。一方で1950年以降の幾多の人災や天災によって四合院の土地所有は複雑化して、増改築が繰り返され、複数世帯が雑居するいわゆる雑院化の問題が深刻である。そうした状況を逆手にとって、改修して住まうことを楽しむ松本大輔氏を中心とした日本人建築家たちがいる。異国の地で半スラム化した場所を愉しむ彼らの姿はなんとも逞しく映る。今回のレクチャーでは彼らの活動の一端を紹介したい。

2025/6/7(土)15:00-17:00 キャンパスプラザ京都 第4講習室 (参加無料・要申込)

主催—NPO法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫 (問合せ: npo@n-bunko.org)